

# 2012年度決算概要 及び 2013年度業績予想

 **住友重機械工業株式会社**  
社長 別川 俊介

# 経営方針

## 2013年度

- 今年度を反転の年と位置付け、  
停滞を脱却して新たなスタートを切る。
- 堅実な経営により足下を固める。
- 売上高6,000億円、営業利益300億円の  
ミニマム目標を必達する。

- ・量産機械系事業の収益力回復
  - ・・・ 新商品の投入などにより早急に収益力を回復する。  
必要に応じ、構造改革を実施する。
- ・重機械系事業の構造改革推進
  - ・・・ 経営資源を最適配置し、効率的に運用する組織体制を構築し、事業の強化・伸長を目指す。

## 2012年度 業績サマリー

### ■ ポイント

#### (1) 受注高

- ・環境・プラントは前期比増加。
- ・精密は射出成形機の不振により減少。
- ・建機は中国減速の影響を受け減少。

#### (2) 売上高

- ・産業機械、船舶は大幅減少。
- ・他セグメントも受注減少の影響を受け減少。

#### (3) 営業利益

- ・環境・プラントは大幅増加。
- ・他セグメントは売上減少の影響もあり減少。

#### (4) 特別損失

- ・船舶事業にかかる減損損失計上。
- ・防衛装備品事業関連損失計上。

	2011	2012	増減
受注高	5,713	5,507	△206
売上高	6,241	5,859	△382
営業利益	471	313	△159
営業利益率	7.6%	5.3%	△2.2%
経常利益	446	310	△136
経常利益率	7.1%	5.3%	△1.9%
特別損益	△64	△202	△138
税金等調整前 当期純利益	382	108	△274
当期純利益	195	59	△136
当期純利益率	3.1%	1.0%	△2.1%

単位: 億円

# セグメント別営業利益

単位: 億円

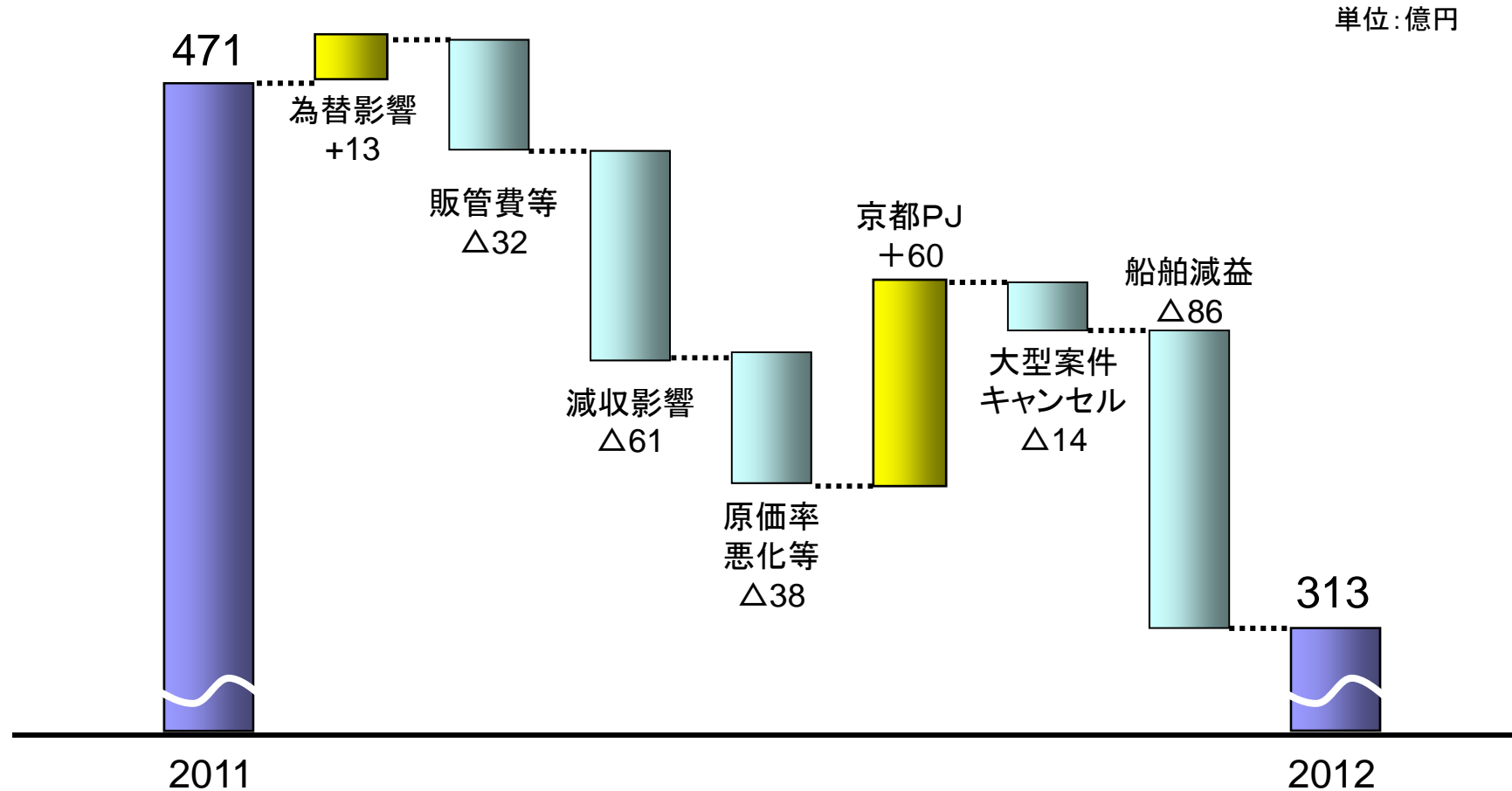
## ■ 対前年度比較

- ＜機械コンポーネント＞  
海外拠点の業績改善の遅れ、大型機種の採算悪化により減少。
- ＜精密機械＞  
大型案件の売上取消および電子・電気関連不振による射出成形機他の影響により減少。
- ＜建設機械＞  
米国モバイルクレーンは増加するも油圧ショベルの売上減少により減少。
- ＜産業機械＞  
クレーン等の売上減少に伴い減少。
- ＜船舶＞  
新造船の売上は前年比2隻少ない5隻。リーマンショック後の受注船は利益率低下。
- ＜環境・プラント＞  
前期に京都市向け灰溶融施設の改造工事費用引当あり。

	2011	2012	増減
機械コンポーネント	42	28	△15
精密機械	125	77	△48
建設機械	83	61	△22
産業機械	95	54	△41
船舶	109	24	△86
環境・プラント	0	56	56
その他	17	14	△2
計	471	313	△159

※ 13年度より組織変更に伴い報告セグメントを一部変更するが、12年度決算実績までは上表のとおり、従来(変更前)のセグメントで開示する。  
セグメント変更についてはP18参照。

# 營業利益増減分析(2011年度－2012年度)



# 連結貸借対照表

- 主に船舶事業にかかる固定資産の減損174億円。うち83億円は土地再評価分。
- 建機・中国の生産減少に伴い買掛債務減少。

単位:億円

	2012/3末	2013/3末	増減		2012/3末	2013/3末	増減
<b>流動資産</b>	<b>4,290</b>	<b>3,866</b>	<b>△424</b>	<b>負債</b>	<b>4,097</b>	<b>3,549</b>	<b>△548</b>
現預金	734	478	△256	買掛債務	1,538	1,136	△403
売上債権	1,812	1,733	△79	前受金	278	209	△68
たな卸資産	1,439	1,392	△47	有利子負債	965	985	20
その他	305	263	△42	その他	1,316	1,218	△97
<b>固定資産</b>	<b>2,628</b>	<b>2,611</b>	<b>△17</b>	<b>純資産</b>	<b>2,821</b>	<b>2,928</b>	<b>107</b>
有形固定資産	2,198	2,107	△92	株主資本	2,556	2,618	61
無形固定資産	64	78	14	その他の包括利益 累計額	232	271	38
投資その他の資産	366	427	61	少数株主持分	33	40	7
合計	6,918	6,477	△441	合計	6,918	6,477	△441
				ネット有利子負債比率	3.3%	7.8%	4.5%
				自己資本比率	40.3%	44.6%	4.3%

# 連結キャッシュフロー計算書

■ 建機セグメントにて運転資本増加。

単位:億円

区 分	2011	2012	増減
<b>営業活動</b>	<b>233</b>	<b>27</b>	<b>△206</b>
税金等調整前当期純利益	382	108	△274
減価償却費	178	183	5
運転資本	△236	△261	△25
その他(税金等)	△91	△3	88
<b>投資活動</b>	<b>△227</b>	<b>△197</b>	<b>30</b>
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>6</b>	<b>△170</b>	<b>△176</b>
<b>財務活動</b>	<b>199</b>	<b>△114</b>	<b>△313</b>
<b>現金・現金同等物増減</b>	<b>199</b>	<b>△264</b>	<b>△462</b>
現金・現金同等物期末残高	724	465	△259

# 2013年度業績予想

## ■ ポイント

- ・2013年度は増収、当期純利益は増益。
- ・2013年度配当は年間6円。

単位:億円

	2012上期 実績	2012下期 実績	2013上期 予想	2013下期 予想	2012年度実績	2013年度予想
受注高	2,666	2,841	2,900	3,200	5,507	6,100
売上高	2,933	2,926	2,750	3,250	5,859	6,000
営業利益	174	139	70	230	313	300
営業利益率	5.9%	4.7%	2.5%	7.1%	5.3%	5.0%
経常利益	166	144	60	200	310	260
経常利益率	5.7%	4.9%	2.2%	6.2%	5.3%	4.3%
特別損益	△10	△192	△5	△5	△202	△10
当期純利益	98	△40	20	120	59	140
当期利益率	3.4%	—	0.7%	3.7%	1.0%	2.3%
配当	4円	4円	3円	3円	8円	6円
配当性向					83.7%	26.3%
ROIC (税引後)					4.9%	4.4%
織込レート(ドル)					85円(実績)	95円



# 機械コンポーネント

## 受注・売上

**12年度:** 欧州市場低迷に加え、資源・エネルギー分野向けの大型減速機が低調であり、受注・売上ともに減少。

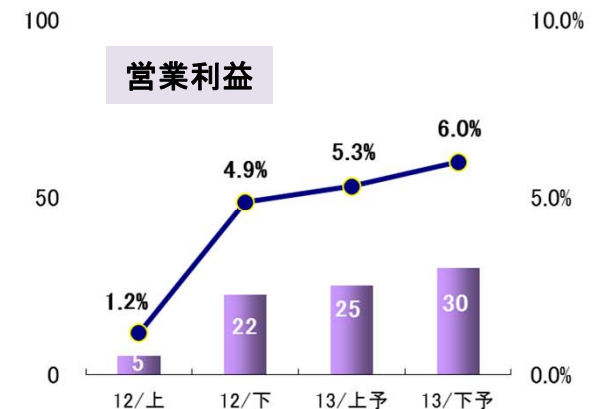
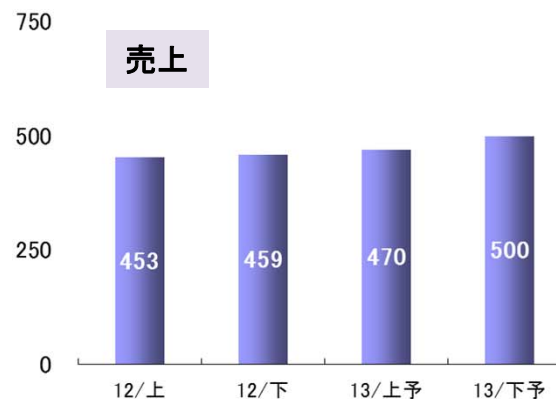
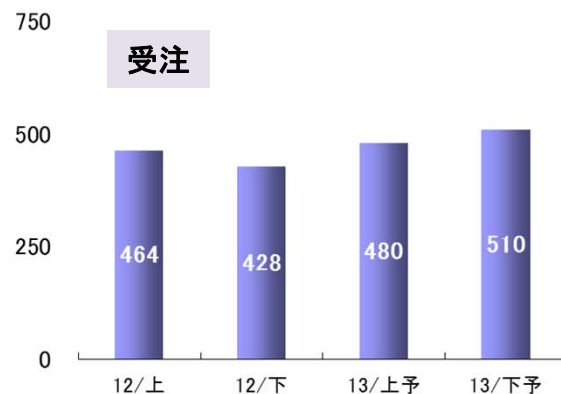
**13年度:** 国内は設備投資伸び悩み、欧州は市場低迷継続の見込みだが、米州、アジアでは設備投資の回復による需要増を見込む。成長市場を攻略し事業拡大を目指す。

## 営業利益

**12年度:** 海外生産拠点の収益低迷。輸出品および大型機種種の採算悪化により利益減少。

**13年度:** 大型機種種の採算改善、国内工場のコストダウン推進、海外子会社の収益力アップにより利益率改善。

単位: 億円



# 精密機械(セグメント変更後)

## 受注・売上

### <プラスチック機械>

12年度: アジア向けの電子・電気関連市況が厳しく、受注・売上とも減少。欧州も全体にわたって低調で下期に受注減少。

13年度: 電子・電気関連市況は若干持ち直すものとみており、さらに12年度投入新シリーズの拡販によりシェアアップを目指す。欧州は市況の緩やかな回復が見られるが依然厳しい。

### <精密先端機器>

12年度: 半導体および工作機械関連機種が低調に推移したが、医療機器用コンポーネントである極低温冷凍機は堅調。

13年度: 冷凍機は引き続き好調。半導体関連は海外への拡販強化。

## 営業利益

12年度: プラスチックが想定より低調に推移したため下期悪化。

13年度: 冷凍機は好調継続、プラスチックの回復を見込む。



※ グラフ中に示している12年度実績は決算実績を変更後のセグメントに合わせて組み替えたもの。セグメント変更についてはP18参照。

# 建設機械

## 受注・売上

### <油圧ショベル>

12年度：国内、北米は堅調だったが、中国需要の低迷に加え下期インドネシアでも減速し、減少。中国工場は減産対応。

13年度：国内、北米は好調継続。東南アジアは年初から回復。さらに、中国は底打ちの兆しあり。

### <モバイルクレーン>

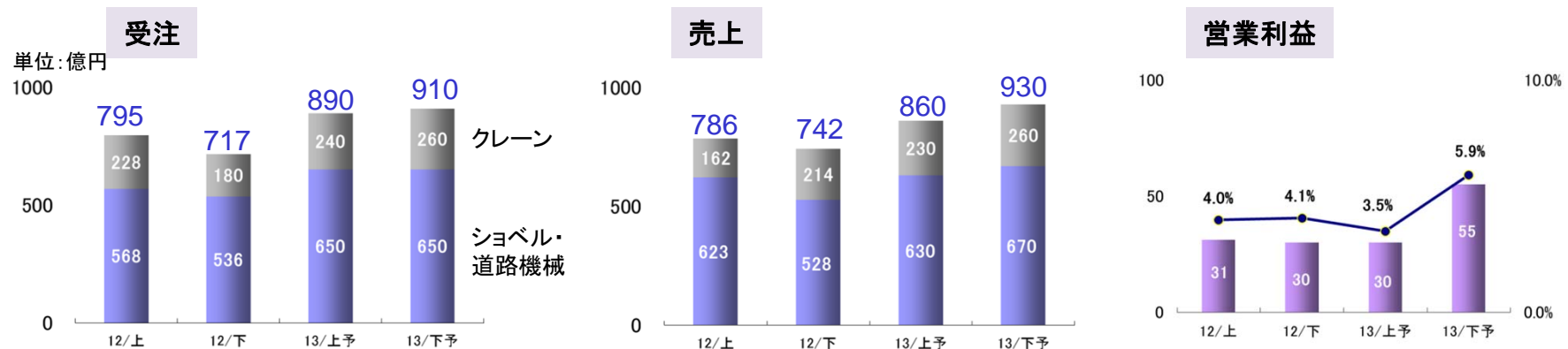
12年度：エネルギー関連、インフラ関連で堅調。

13年度：好調継続の見込み。

## 営業利益

12年度：モバイルクレーンは好調だが、油圧ショベルが中国などで低調に推移したため低い。

13年度：日本・北米・東南アジアの市況回復に伴い収益率改善。



## 産業機械(セグメント変更後)

### 受注・売上

**12年度:** 産業機器は大型プレスが受注好調。搬送システムは国内大型案件が減少し海外展開を図るも厳しい。タービン・ポンプは上期は円高の影響もあり受注環境が厳しかったが下期は円安傾向で環境好転。構造改革に着手。

**13年度:** 産業機器事業および搬送システム事業の組織改革により事業拡大を目指す。医療システム関連に注力、タービンは海外市場でバイオマス関連をターゲットに受注拡大。

### 営業利益

**12年度:** 搬送システムは売上減少により悪化。医療システム関連で収益悪化。

**13年度:** 厳しい状況が継続する。統合により収益改善を目指す。

※ 全社の構造改革の第一弾として4月1日付で産業機器事業および搬送システム事業の組織改革を実施。詳細はP18参照。



※ グラフ中に示している12年度実績は決算実績を変更後のセグメントに合わせて組み替えたもの。セグメント変更についてはP18参照。

# 船舶

## 受注

12年度： 第4四半期にアフラマックスタンカー1隻を受注。これにより、12年度末受注残は2隻。  
 13年度： 為替動向はプラスだが、ドル船価が低いレベルで推移しており、受注環境は引き続き厳しい。上期2隻成約の見込み。

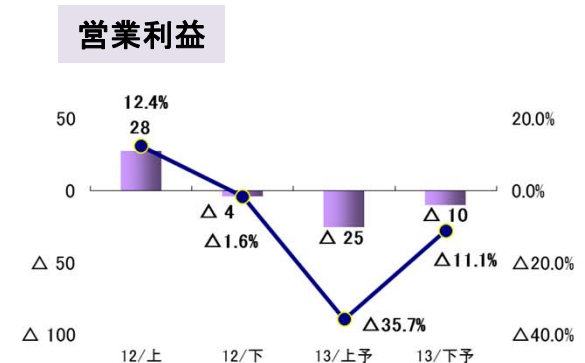
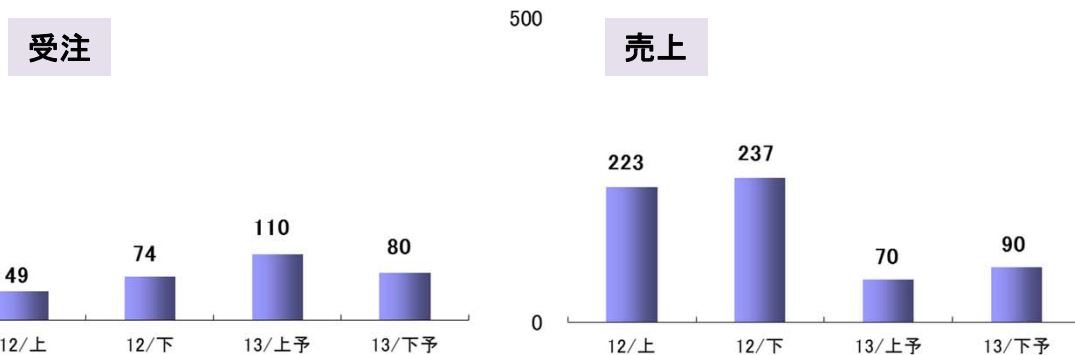
## 売上

12年度： 第1四半期に2隻、第4四半期に3隻を引渡し。うち第4四半期の1隻はスエズマックスタンカー、残りはアフラマックスタンカー。  
 13年度： 上期アフラマックスタンカー1隻を引渡し予定。

## 営業利益

12年度： 下期、船価の低い船の引渡し。人員対策実施済み。  
 13年度： 上期操業不足のため赤字の予想だが、損失ミニマムにすべくさらなる配転、他社応援派遣等の施策を実施。

単位：億円  
500



# 環境・プラント

## 受注・売上

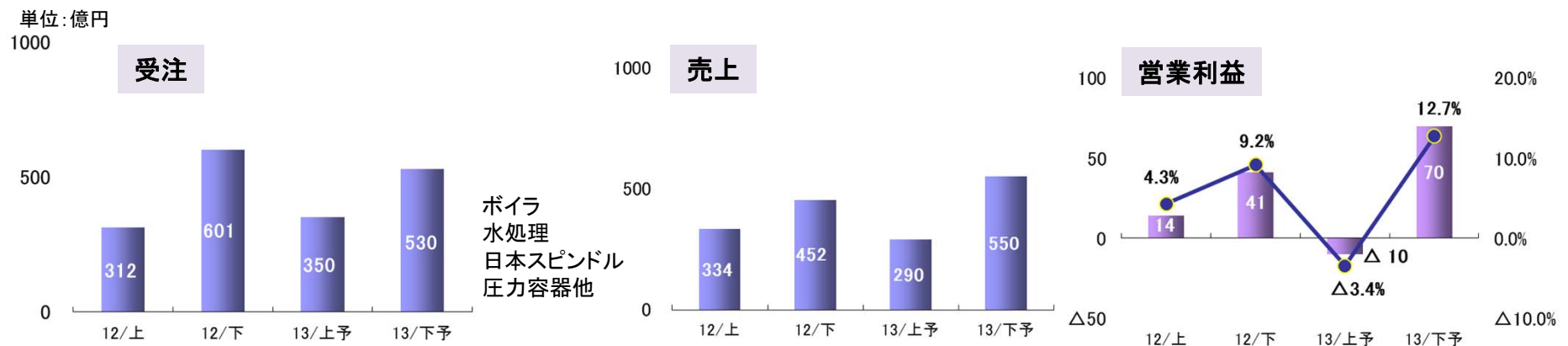
12年度：ボイラは国内はバイオマス関連を中心に、海外はインドネシア案件が活況のため、受注は増加したが、受注残が少なかったため売上は減少。水処理は市況が低調に推移し受注・売上とも減少。

13年度：ボイラは好調継続するも、受注残の関係で上期は売上が厳しい。水処理は低調に推移の見込み。

## 営業利益

12年度：ボイラ・水処理プラント中心に収益改善。

13年度：上期は売上が少ないため赤字。下期は工事進行基準の売上に伴い利益増加。



# 2013年度セグメント別業績予想まとめ (セグメント変更後)

単位: 億円

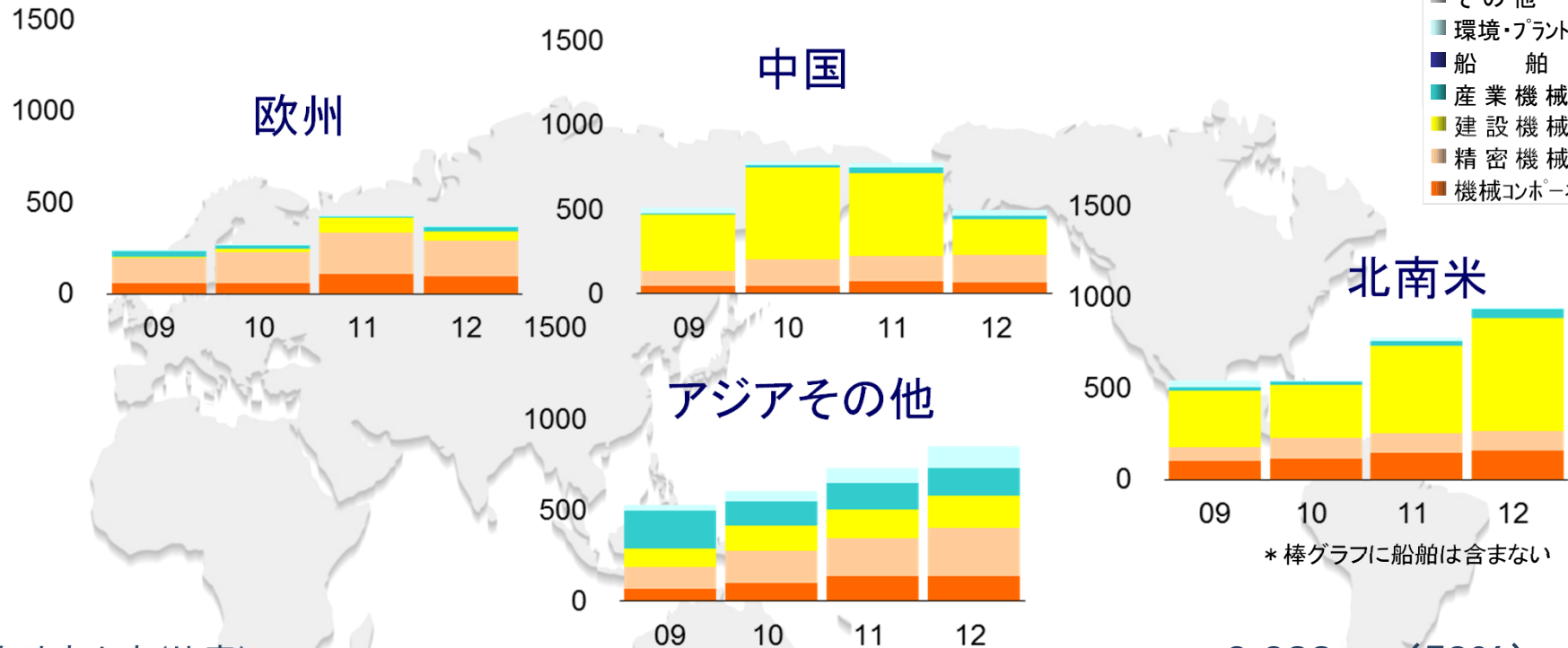
- ポイント (1) 受注は環境を除き増加。機械コンポ、建機は引き続き海外中心に伸長。
- (2) 売上は船舶で減少。
- (3) 営業利益は機械コンポ、建機、環境で増加するも、産機、船舶で減少し、全体として横ばい。

		2012上期 実績	2012下期 実績	2013上期 予想	2013下期 予想	2012年度 実績	2013年度 予想
機械コンポーネント	受注高	464	428	480	510	892	990
	売上高	453	459	470	500	912	970
	営業利益	5	22	25	30	28	55
精密機械	受注高	583	602	630	710	1,185	1,340
	売上高	647	599	640	720	1,246	1,360
	営業利益	56	31	30	50	86	80
建設機械	受注高	795	717	890	910	1,512	1,800
	売上高	786	742	860	930	1,528	1,790
	営業利益	31	30	30	55	61	85
産業機械	受注高	419	376	400	400	795	800
	売上高	449	393	370	430	843	800
	営業利益	34	10	10	30	44	40
船舶	受注高	49	74	110	80	123	190
	売上高	223	237	70	90	460	160
	営業利益	28	△4	△25	△10	24	△35
環境・プラント	受注高	312	601	350	530	914	880
	売上高	334	452	290	550	786	840
	営業利益	14	41	△10	70	56	60
その他	受注高	43	44	40	60	87	100
	売上高	41	44	50	30	85	80
	営業利益	6	8	10	5	14	15
合計	受注高	2,666	2,841	2,900	3,200	5,507	6,100
	売上高	2,933	2,926	2,750	3,250	5,859	6,000
	営業利益	174	139	70	230	313	300

# 地域別売上(セグメント別)

■ 全地域にわたり機械コンポ、精密、建機の拡大に注力。

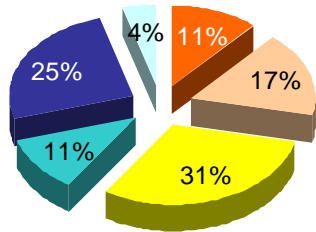
単位: 億円



\* 棒グラフに船舶は含まない

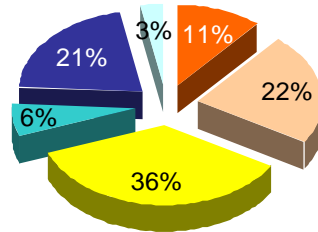
海外売上高(比率)

2,434億円 (47%)



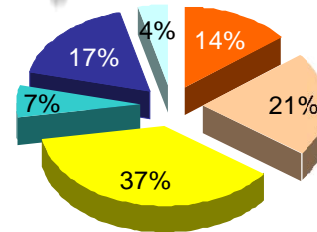
2009

2,774億円 (51%)



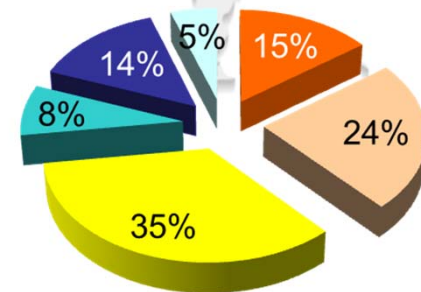
2010

3,278億円 (53%)



2011

3,088億円 (53%)



2012



# 防衛省に対する過大請求について

---

## ■ 概要

当社および子会社の住重特機サービスが、防衛省に対し費用の過大請求を行った件について、2012年5月に指名停止を受けた。本年2月に過大請求にかかる返納金約50億円を同省に納付し、指名停止は解除。3月以降受注活動開始。

防衛事業については12年度は上記の影響で赤字だったが13年度は黒字化を図る。

## ■ 再発防止

再発防止に全力で取り組み、コンプライアンスを一層推進していく。

# 組織改革について

全社の構造改革の第一弾として、重機械系事業の収益力向上を図るため、組織改革を実施。産業機器、搬送システムの各事業を骨太の事業に育成し、海外へも事業展開していく。

## ■ 組織改革(2013年4月1日付)

- (1) 量子機器事業部と住友重機械テクノフォート(株)(STF)を統合し、「産業機器事業部」を新設

※ これに伴い、13年度より量子機器は精密機械セグメントから産業機械セグメントに変更

- (2) 当社のロジスティクス&パーキングシステム事業部と住友重機械エンジニアリングサービス(株)(SES)を統合し、「住友重機械搬送システム(株)」を設立

## ■ 目的

- (1) がん診断・治療装置などの大型医療装置を主力とする量子機器事業部と、大型プレス機器の設計、製造、据え付け工事などの事業を展開するSTFを統合し、両事業運営の効率化と組織能力強化を図る。
- (2) 運搬荷役機械と物流システムなどの事業をマテリアルハンドリング事業として統合し、物流システムの得意とする制御技術をベースに高度な大型搬送システムを提供するとともに、先にSESが展開してきた物流システム関係も含むサービス事業と合わせ、効率的な事業運営を図る。

# 船舶事業の取り組みについて

## ■ 市場環境

世界経済の停滞および新造船の供給過剰を受け、海運・造船市況は依然低迷状態が継続する。

## ■ これまでの当社の対応

市場の需給関係が大きく崩れている現状では、採算が取れる有効な受注は期待しがたく、市況回復時の速やかな対応に備えながら、可能な限り損失を回避していく。損失ミニマム(3隻建造体制)の方針のもと、12年度第4四半期にアフラマックスを1隻受注。営業活動を継続しつつ、建造ペースはスローダウンを開始。人員は3隻建造体制に。

## ■ 今後の造船事業運営方針

当面上記の方針に沿って運営していくが、赤字継続は認められず今年度内を目途に事業の方向性について検討し、成案を得る。

## 京都市向け焼却灰溶融施設について

現在、下記のとおり予定どおり進捗中。安心安全な施設を引き渡すべく全社を挙げて取り組んでいる。

2011/5-2011/11	焼却灰溶融施設の試運転
2011/11-2012/4	試運転を停止し下記を実施 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 当施設の全ての機器・設備の点検</li><li>・ 予想される全てのトラブルと原因の抽出</li><li>・ 対応策の立案</li></ul>
2012/8-2013/1	改造工事
2013/2	事前試験及び工程別調整
2013/3-2013/5	運転調整
2013/5	1次試運転及び性能試験
2013/6	2次試運転及び性能試験
2013/8/末までに	完成検査を経て引渡し

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。